

平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力 「セント・アンズ・ベイ地域病院医療機材整備計画」引渡式

2018年11月19日、山崎大使はジャマイカ北部セント・アンズのセント・アンズ・ベイ地域病院にて行われた、平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「セント・アンズ・ベイ地域病院医療機材整備計画」の引渡式に出席しました。同引渡式にはクリストファー・タフトン保健大臣、シャヒーン・ロビンソン労働社会保障大臣、マイケル・ベルネイヴィス・セント・アンズ・ベイ市長など、病院、保健省、地域関係者約70名が出席しました。

同病院は、これまでセント・アンズ県だけでなく、近隣県（ポート・ランド県、セント・メアリー県、クラレンドン県、トレローニー県）の患者も受け入れてきた北東部地域の拠点医療機関であり、特に産婦人科においては出産件数は年間約4,000件にのぼります。しかし、同病院では子宮外妊娠、分娩前出血、分娩合併症など、妊婦および胎児の生命に関わる症状を発見するための超音波検査器を、処理速度の遅い旧型のもの1台のみ保有していたため、全妊婦の約3割しか適正なタイミングでの超音波検査を行えていませんでした。そのため、検査および適切な処置の遅れによる妊産婦および子供の症状悪化や死亡のケースが散見されており、同病院では、最新の超音波検査機器の導入が待ち望まれていました。

本プロジェクトにより、セント・アンズ・ベイ地域病院の産婦人科に最新の妊婦用超音波機器が整備され、適切なタイミングで妊婦が超音波検査を受け、より迅速に医師が処置を施せるようになります。セント・アンズ及び近隣県の女性がより良い医療にアクセスすることが可能になり、同地域の妊産婦および新生児の健康がより一層向上することが期待されます。

同病院産科顧問医師のクラーク医師からは、本年8月末に同病院に供与機材が到着して以降、式典前日までの約3ヶ月間に760回、供与機材を用いた検診が実施されており、分娩前出血等の症状があった女性に対して迅速に検査・処置を施し、母子の命を救った例などが報告され、会場は大きな拍手に包まれました。

タフトン大臣は、セント・アンズ・ベイ病院に文字通りの「生命を救う」支援を実施し、これまで他にもジャマイカで多く支援を実施してきた日本政府の人間の安全保障考えに基づいた取組みを高く評価しました。また、ジャマイカの医療保健分野を更に発展させるために、引き続き、日本との更なるパートナーシップの強化を望みました。

山崎大使は、セント・アンズ及び近隣県の母子のための発展した医療ケアを実現する超音波機器を引き渡すことを嬉しく思う、今後も日本政府としてジャマイカの全ての人々の利益に繋がるような援助を続けていきたい旨述べました。同県商工会議所から、山崎大使に対し記念の感謝盾が授与されました。



超音波機器を引き渡すことの喜びを述べる山崎大使



日本のジャマイカに対する支援を称えるタフトン保健大臣



セント・アンズ・ベイ地域病院への支援に謝意を述べるロビンソン労働社会保障大臣



超音波機器を供与された喜びと謝意を述べるセント・アンズ・ベイ病院ギャレル事務総長



同病院顧問産科医クラーク医師による、セント・アンズ・ベイ超音波機器供与計画の効果の説明



保健省北東地域局のタイロン・ロビンソン理事長からの祝辞



日本からの援助に謝意を述べるタニヤ・ハミルトン＝ジョンソン同病院首席医務官



同病院職員による日本への感謝の意を込めた歌の披露



同病院の看護師による歌の披露



セント・アン県商工会議所から山崎大使へ記念盾の贈呈



山崎大使、タフトン大臣、ロビンソン大臣一同が
供与された機材を視察



病院の職員と山崎大使